

第29回全国研修のテーマについて

町を歩こう ～福祉の心を文化に～

“町を歩こう”という言葉は、大阪市地域福祉施設協議会（大地協）40周年（1997年）記念誌作成時のスローガンとして掲げられていました。また、大阪で行われた第3回全国地域福祉施設研修会のテーマにもなりました。その当時から20年以上が経過し、町はどのように変わり、社会はどのように変わってきたでしょうか。

差別、貧困、格差など今の社会は多くの課題が浮き彫りとなり、また規律や規範、普通という言葉などの見えない抑圧に固く縛られています。一様に“自立”や“生産性”を追い求める今の社会は、息苦しく、多くの方が生きづらさを感じているように思います。私たちが働く施設の利用者や町に暮らす人たちにも例外なく生きづらさを感じている人は少なくありません。

私たち地域福祉施設（職員）ができることは何なのか。その答えはやはり人々の暮らしの中＝町の中にあるのではないのでしょうか。できることは決して大きくはありません。しかし、私たちは目の前で苦しみを抱えている人たちと共にいること、違いや弱さを認め合うこと、そして人と人がつながることを大切にしてきました。その“福祉の心”の種が町の中に芽生え広がり、町の文化として根付いていくために、今、次の一歩をどう歩むかが問われているように思います。

『駅から施設に来るまで何人の人と挨拶をしましたか？』大地協40周年当時の3代目会長である菅良介氏の言葉です。職員に対して何度も語りかけ、町を歩くことの大切さを伝えてくれました。今一度、地域福祉施設に求められている“町を歩こう”に立ち返り、私たちにできることは何なのか、大阪の地で語り合えることを楽しみにしています。（実行委員長：楠 勇）



プログラム

第1日目 2月14日（金）

12:00	受付	
13:00	開会挨拶 来賓挨拶	青柳 毅さん（阿倍野区長）
13:20	メッセージ	阿部 志郎さん （日本地域福祉施設協議会 名誉会長）
13:30	基調講演 『誰もが貧困しない社会とは～個別支援を超えて～』	桜井 啓太さん （立命館大学産業社会学部 現代社会学科 准教授）
15:30	パネルディスカッション 『福祉の心を文化に～実践を通して～』	パネリスト 蕨川 晴之さん、谷口 英代さん 伊丹 桂さん、小川ちはるさん
	助言者	桜井 啓太さん
	コーディネーター	角中 恒介さん
17:30	意見交換会	



第2日目 2月15日（土）

9:00	分科会	
11:30	まとめ	岸川 洋治さん （日本地域福祉施設協議会 会長）
11:50	閉会挨拶	西野 伸一さん （日本地域福祉施設協議会 事務局長）
12:00	終了	



アクセス

- 東京・名古屋・神戸・大阪方面から
- ・JR「大阪」駅～環状線「天王寺」駅⇒徒歩15分。
- ・地下鉄御堂筋線「梅田」駅～「天王寺」駅⇒徒歩15分。
- ・地下鉄谷町線「東梅田」駅～「阿倍野」駅⑥番出口⇒徒歩10分。
- ・阪堺上町線「松虫」駅⇒徒歩3分
- ・近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅⇒徒歩15分。
- ・南海本線/高野線「天下茶屋」駅⇒徒歩15分



google map



会場アクセス

第29回全国地域福祉施設研修会

大阪大会



日時	2025年 2月14日（金）13:00～19:30（受付12:00～） 2月15日（土）9:00～12:00
会場	大阪キリスト教短期大学 〒545-0042 大阪市阿倍野区丸山通 1-3-6
主催	日本地域福祉施設協議会 特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会
共催	愛恵福祉支援財団
後援（予定）	厚生労働省 / 大阪市 / 全国社会福祉協議会 / 大阪市社会福祉協議会 / 大阪市社会事業施設協議会 / 朝日新聞厚生文化事業団 / 毎日新聞大阪社会事業団 / 産経新聞厚生文化事業団 / 大阪ボランティア協会
参加者	住民 / 施設利用者 / 地域福祉施設（隣保館、児童館、学童保育 / デイサービスセンター特別養護老人ホーム / 保育園、他各種社会福祉施設）職員 / 社会福祉協議会関係者 / 研究者 / 学生 / NPO / ボランティア / 行政関係者
参加費	研修会 2日参加：一般 8,000円 会員 7,000円 1日参加：一般 4,000円 会員 3,500円 学生 2日参加・1日参加ともに500円（資料代） 意見交換会 4,000円
申込期間	2024年12月24日（火）～2025年1月31日（金）
申込みお問い合わせ	特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会 Tel.06-6633-2965 Fax.06-6633-2970 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 2-9-2 わかくさ保育園内 蕨川晴之（ワラビカワ）宛 メール：wakakusa@aizenen.or.jp http://www.daichikyo.jp/ 大地協 ←スマホ・PCからお申し込みください



申し込みフォーム

町を歩こう

1 基調講演 2/14 金 13:30-

講師 さくらい けいた **桜井啓太**さん

立命館大学産業社会学部准教授。専門は社会学、社会福祉学。大阪市立大学大学院創造都市研究科修了（博士）。



「誰もが貧困しない社会とは？」 ～個別支援を超えて～

●大学卒業後、関西の地方自治体で生活保護ケースワーカーなど10年間勤務。その後、名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授を経て、2019年4月より現職。主著に『〈自立支援〉の社会保障を問う』（法律文化社）、『子育て罰』（光文社新書）など。

2 パネルディスカッション 2/14 金 15:30-

福祉の心を文化に ～地域福祉実践を通して～

大阪 わらびかわ はるゆき **蕨川晴之**さん

わかくさ保育園 園長



●1995年社会福祉法人石井記念愛染園に入職。1999年よりわかくさ保育園に勤務。かつての「日本最大の労働者の町」、西成区の釜ヶ崎（あいりん地域）の真ん中にある保育園にて、子どもの気持ちを尊重する保育の実践を追求している。さらには、さまざまな関係機関との連携を大切にしながら、「子育て・子育てにやさしいまち西成」の実現に向けた取り組みをすすめている。

大阪 たにぐち ひでよ **谷口英代**さん

大阪市浪速地区民生委員・児童委員協議会委員長



●地域活動として、小・中学生向けの学習支援、寄り添い型子ども食堂に加え、子どもと保護者への相談事業などを次々と立ち上げる。地域、学校、区役所、社会福祉協議会など、多種多様なアクターと連携・協働し、地域の子どもたちの見守り活動を実践している。



コーディネーター

大阪 かくなか こうすけ **角中恒介**さん

やまと保育園 主任保育士

名古屋 おがわ **小川ちはる**さん

名古屋市南区障害者基幹相談支援センター 副所長



●1999年社会福祉法人名古屋キリスト教社会館に就職。菜の花保育園、南部地域療育センターそよ風通園部、デイサービスACT（児童発達支援/放課後等デイサービス）などで、保育・療育に携わる。2013年障害児相談支援事業所そよ風。2021年より南区障害者基幹相談支援センターで勤務。保育士、相談支援専門員。

東京 いたみ けい **伊丹桂**さん

母子生活支援施設ベタニヤホーム 施設長



●母子生活支援施設、児童養護施設、地域子育て支援拠点を経て現職。NPO法人ライツオン・チルドレン理事として児童養護施設における子どものスマホトラブル対応プロジェクトに参画中。港区立児童相談所設置検討委員会専門委員（2017～2021年）。「墨田区食品ロス削減推進計画」に参画（2023年）。

3 分科会 2/15 土 9:00～11:30

第1分科会 『町を歩こう
～地域福祉施設の職員が町を歩く意味～』

何のために町を歩くのか。漠然と町を歩くだけでなく、意識して町を歩くことで、今まで見えていなかったものが見え、聴こえてこなかった声が聴こえてくるかもしれません。今回は実際に西成の町を歩きながら、案内人に実践を語っていただきたいと思います。対象：学生、入職1～5年目程度 形式：フィールドワーク型 スピーカー兼案内人：澤村 稔さん（西成市民館）

第2分科会 『多文化共生のまちづくり』

“ちがいがたくさんあることは豊かなこと。誰もが暮らしやすい共生のまちをつくりたい。文化や国籍、言語、家庭の状況にかかわらず、地域で暮らす人たちが多様性を尊重され、公正に認められる社会、差別と貧困のない社会を目指します。実践事例から多様な人たちがつながることによって生まれてくるものについて考えます。発題者：金 和永さん（NPO法人IKUNO 多文化ふらっと） 山村 肇さん（阿倍野ひまわり作業所） 中村淳子さん（公益社団法人認知症の人と家族の会）

第3分科会 『まちと施設と防災』

現在の日本では地震だけでなく、温暖化の影響により至る所で豪雨災害が頻繁に起こっています。災害が起こった時に必要なことは、普段から顔の見えるつながりや助け合い。身近に迫っている災害に対して、まちの防災力を高めていくために地域福祉施設の役割とは何なのか、一緒に考えていきたいと思います。発題者：森崎 輝行さん（森崎建築設計事務所） 松尾 紀明さん（あべてん防災コンソーシアム）

第4分科会 『まちでの権利擁護
～ひとりひとりの尊厳を守る断らない伴走型の支援とは～』

地域の中で暮らすためには、その人の立場にたった権利擁護をしていくことが重要です。被後見人が若年である場合や、長期にわたる伴走が必要な場合では、後見人も個人よりも法人である方が有効です。法人組織として役割分担の利点を活かし、地域福祉施設がインフォーマルにもフォーマルにも暮らしの権利を守る方法を考えます。発題者：山田 美代子さん（東大阪市地域包括支援センター向日葵） 久保田 佳宏さん（八尾隣保館）

第5分科会 『子どもたちが安心を守るために私たちができること～松高にきたらええやん～』

大阪府立松原高校の「産業社会と人間」の授業では、生徒が自身の課題を通して社会問題に向き合い、教員が一对一で受け止めることで安心の土台を築きます。なぜ子どもたちが受け止められる機会が減っているのか、一緒に考え、学びを深めましょう。発題者：小林 美由里さん、伊藤 あゆさん、中川 泰輔さん（大阪府立松原高校教員）